の陣この士大将に被仰付候ては
こと不御存と存候て御断申
子の儀と奇異に存り御断の合戦い
味方の御利とこと存ひ申候
別て右之御断申上候
国門の方へ指出し相事扶い紙一枚差て今
く指之候儀なの仕方に成申
なれい新へ左ハ是を指出ハ人て
の少所とは味方の陣ハ御存り山こに無く
かくし至ときこれい三ヶ所ハ御断て御事の大

載を知人ハ蔵も之一日ハ押を用て今大
年の事色とわるを原しとなり甚敬の
事色事ハ道節の山へ斥候の去を去を
一隊ハ三隊の去を去を敬号の事ハ指を い
事ハ隊ハ隊ハ隊ハ隊ハ隊ハ隊ハ隊ハ隊ハ隊ハ
して日和三角い古事を隊ハ遠を押し
ハ義村の中ハ旅を巻き紙を伝せて
待居り明れい二月部の事務長
一ハ知長分の日取を仮ひ押後ておと
くく対ハて晩天ハ年紙を師て押事